# 第１回みやぎ観光振興会議仙台圏域会議 委員等発言要旨

令和２年６月１８日（木）午後１時３０分から
宮城県仙台合同庁舎１０階１００１会議室

江口委員

・七ヶ浜町内で運営している宿泊施設と飲食施設は，新型コロナウイルス感染症の影響で，４月は昨年対比で，売上が３割まで落ち込んだ。
・５月・６月は，飲食は昨年対比８割まで回復した。宿泊は，６月も２～３割くらいに落ち込んだままであり，宿泊のお客様はまだ動かないのかなと思っている。
・各室内に空気清浄機を設置するなど，安心安全対策を実施したものの PR ができていない。

大崎委員

・大衡村で宿泊される方は，仙台北部中核工業団地関連の仕事で来られる方がメイン。３月以降，コロナウイルス関連の報道等で，徐々に宿泊が減ってきた。
・５月は，昨年対比で５割。６月は，昨年対比で３割。７月・８月は前年同期の１割弱の予約となっている。
・７月くらいまでは様子をみたいと言う利用者側の意見もあり，予約も７月・８月はまだ見込めない状況である。
・「見える化」というか，安全に安心して宿泊いただくための手順についてシミュレーションしながら，客室の消毒，レストランの集客時の密を避ける状況をどうするかなど，自分たちができることから手探りで実施している。

大沼委員

・今まで３０年以上小売業で働いており，お客さんへの対応という点では一緒だが，観光については勉強中である。
・配付されている資料について，どうやって調べているのかと思った。もとの業界ではＣＩデータや家計調査年報など，信頼のおけるデータを参考にしていたが，県はどうやって調べて，こういう数字が出ているのかわからないので，教えて欲しい。

加藤委員

・塩釜地区，松島地区の観光入込数や宿泊数は，平成の初めに比べて半分くらいに落ち込んでいる。
・宿泊業は，これからどうやって生き延びていくかが課題であり，去年あたりのデータを拾っている資料を，もう少しかみ砕いた形で出してもらえればと思う。
・密を避けるため，団体客や宴会客を取り込むのが難しくなっているので，対策を考えなければいけないと思う。

小松委員

・松島地区は，宿泊客数が対前年比で９５％～９８％減っている状況。宿泊業界は，４月から５月末までほとんどの旅館が休館した。
・松島の旅館組合では，新型コロナウイルス対策について経営面と観光面で検討している。
・経営面では，東日本大震災の被害で，多額の借金を現在も返済中の事業者も多い中，政府的機関からの借入れにより借入れが増大し，この状況が長引いた場合に半年から１年先の経営が成り立つのかといった議論をしている。
・観光面では，県民を対象とした「松島 GoTo キャンペーン（仮称）」を７月から９月まで実施予定。宿泊補助券と食事や土産，船，拝観に利用できるクーポンがつく予定。
・６月から旅館，お土産屋の８割から９割は開業しているが，肝心なお客様がまだ戻っていない状況であり，県にはぜひ有効な方策をとってほしい。

佐々木委員

・閖上の「港朝市」は，ゴールデンウィーク以降，人出はあるが，前年には及ばない。「かわまちてらす」も同様である。
・秋には，サイクルスポーツセンターがオープンし，温泉ができる。宿泊施設を建設しているが，観光に関しては，人が来ない限り難しいと思うので，どのように推移していくのか心配である。
・かまぼこは，観光地の高速道路の売店，お土産屋等では，前年対比２割の売上げしかない。
・８月以降，商工会で３割増しのプレミアム商品券を発売し，活性化を図ろうと内容を検討している。
・早期の収束を図り，アフターコロナの準備をしておかないといけないと思っている。

鴫原委員

・観光バスに関しては，いまは仕事がほぼゼロの状態。
・９月・１０月には，４月・５月に予定されていた学校関係の遠足や修学旅行の付け替えがあるが，コロナウイルス感染症第２波が発生すれば，それもなくなる。
・バスの感染予防等については，お客様が降りる度に次亜塩素酸水で消毒している。運転席後部には，せき等による飛沫感染の予防をしている。今後，次亜塩素酸水を気化させて車内を除菌する装置を導入することを考えている。
・バスは，密になりやすいイメージがものすごく強いため，払拭できればいいと思っている。
・観光バスは，アイドリングして５分で外気との入れ替えができる。乗車前に空気の入れ換えをしつつ，さらに除菌装置をつけ，車内では感染をしないようバス運営をしていかなければならないと考えている。

島谷委員

・仙台圏域は、仙台市を核として宮城県さらには東北にとって大きな影響力を持つ地域である。それだけに、様々な分野で仙台市と今こそ一枚岩となってどの様な連携が可能かについて検討することが必要と思う。
・政令都市としての仙台は、人口、経済、産業等、多くの面で飛び抜けている。このことを基本として、このパワーを圏域全体でどう活かしていくことができるかがポイントである。特に観光分野においては、仙台は東北で唯一〝大きな発需要〟を抱えており、都市観光の展開を含め、イン・アウトを両立させた施策の展開が可能である。
・県民の皆さんに、自分の地域はどのような町なのか、どのような良いところがあるのか等を改めて理解をしていただく取り組みが必要ではないか。外に向けての発信同様に、県民へ地域の理解を深めるための取り組み、啓蒙活動が必要と思う。
・仙台市は、転出入者が毎年それぞれ４万人を超えている。転入者は新しい見込み客となる。転出した方は転出先で宮城県、東北を発信していただければ有効なピーアールとなる。県民一人ひとりが観光マンとなり、わが地域、宮城県へ来ていただきたいという思いを持っていただくための取り組みが必要と考える。

鈴木委員

・コロナと前回の東日本大震災の違いは，大震災の被災地は東北沿岸であり，全国，海外からも支援として旅行客が来てくれたが，今回は，被災地が全世界的な規模であること。
・解決しなくてはいけない諸課題に対して，百点満点の対応の仕方が目に見えていない状況にある。一生懸命，少しずつ改善しながら前に進めること，安心と安全をお客様に提供することが最大の誘客につながる道だと思う。
・「マイクロツーリズム」として，県内，近隣のお客様を呼び込みましょうと，県や東北観光推進機構も，インバウンド一辺倒から方向転換した。各市町村，各事業者が，お客様に少しでも長く滞在し楽しんでもらえる環境を作っていくことが最大の使命である。
・関東圏，関西圏の大都市の市場は魅力的だが，そこから東北に来るまで時間がかかる。いかに東北，プラスワンの新潟県の中で，交流人口を増やしていくか，そのためにはどうしたらいいのかと考えている。

大宮司委員

・マスクの着用や手の消毒液の設置など，目に見えることはすでにやっているが，受け入れる側としては，どこまでやればいいのかという問題がある。
・県の説明に感染症対策実施中というステッカーを出す案があったが，この会議の案が決まる１０月には現場では必要なくなっているのではないかと思う。もう少しスピード感をもって動いて欲しい。
・ピクトグラム等を使用し，わかりやすい形，見てすぐわかる，貼りだせるもの等を使って，２週

間から３週間の間に使えるようなものをすぐ発送することができないのか，聞きたい。
・県内のお客様，東北域内のお客様の重要性が増してくるので，宮城の魅力を県や地元の人間がどんどん SNS 等で発信するなどの話題づくりが大事だと思う。
・良い季節なので，良い映像を撮りためていったらいいと思う。人がいないので「良い景色」がすごく撮りやすい。お客様が来ないうちに用意して，発信して欲しい。

武田委員

・岩沼市主導で飲食企業に対する支援として，先日，割増商品券を発売した。今度は，商工業を対象に，割増商品券の発行を予定している。
・３密対策，ウィズコロナの情報は，今，どのような対策をとればいいかは，市民のみなさんも大体分かっていると思う。
・秋口以降にまた感染が広まると言われているが,「２波，３波の感染に対する対策は，このぐらいまできちんと整っている」と県で広報を流し, 県民に安心感を与えることが, 一番大切だと思う。県民に安心感を与える対策をきちんと実施しているという情報を発信して欲しい。

冨谷委員

・塩釜では６月中旬くらいから人が出てきたが，ほとんどが近場，地域の人たちで，人出は半分くらい。
・経済的支援や感染予防対策を知らない事業者もいると思うので，個々の事業者でも分かるような手段があれば良い。
・経済を戻すための人の交流は，やはりイベントであり，いかに実施できるようにしていくかというのが大事である。イベント実施を事業者個々で決断するのは，難しい判断を迫られるので，指標のようなものがあればいい。
・県内で人を回せるかがとても大事であり，そのためには市民の気持ちの醸成，シビックプライドの醸成は，かなり重要。
・個々の事業者や地域の団体だけでは情報発信は非常に難しい。地元の特集をするとか，新聞，報道，テレビ等で県民の気持ちを動かすような情報発信が必要。メディアや SNS の活用など，うまくまとめて大きな形にしていかないと経済として回っていかないと思う。

馬場委員

・イチゴ狩りや２月以降のイベントが何もできず，集客ができていない状況。
・密にならない対策をしてきたが, 新型コロナウイルスは, お客様も怖いが従業員もやっぱり怖い。お互いに安全が担保されないと，人も来ないし，受け入れ側も対応しにくい。
・検温や噴霧型の消毒装置などの設備投資に対する国，県の補助があると，お互いに安心だと思うし，そうすれば行き交う人が多くなると思う。
・明日以降，また県をまたいで移動してくるようになる。安全を担保するのが一番重要だと考えて

いる。

早坂委員

・観光資源になり得る中山間地の農業・林業の活性化をテーマに取り組んでいる。大和町の田園風景，山，川などの風景をできればヨーロッパあるいは北海道のような風景に変えたいと考えている。
・中山間地域の炭焼きから立ち上る煙は，日本の田舎の原風景ではないかと考えている。
・周辺の観光施設は，家族経営のところが多い。再度，歴史を含め，忘れられた風習など，観光資源となり得るものの掘り起こしを進めていきたい。
・マイカーで来る個人のお客様が多いが，将来的には観光の来客，バスへの波及は不可欠と考えている。
・一昨年の世界ラリー選手権でチャンピオンになったヤリスを生産しているトヨタの工場がある宮城県に，王城寺原演習場を借りて，世界ラリー選手権を誘致したい。

林委員

・ホテル部門については，インバウンドは３月以降，１０月まですべてキャンセル，レストランはバイキングも自粛。宴会，婚礼もほぼゼロで壊滅的な状況。仙台のシティホテルは大体同じような状況。
・６月になって若干宿泊等が増えつつあり，テレワークプラン，サーモカメラや消毒，マスク提供など，安全を担保する取組みをやっている。
・ショッピング部門は，飲食，お土産品といったものは全然戻らず，苦戦が続いている。
・全国一斉に国の GoTo キャンペーンで支援が始まるが，首都圏を中心に仙台・宮城に来ていただくには，魅力をもっと発信しないと乗り遅れるので，GoTo キャンペーンを待たずに，域内流動できる，地元の方が地元を利用できる仕掛けがほしい。公共機関，博物館，美術館，歴史館，水族館に対する補助や無料化をすれば，行ってみようと，人が動くのではないか。遊覧船や公共交通も無料にすると地元の方も含めて多くの方が立ち寄って，色々なところにお金を落として，経済効果が見込まれるのではないか。
・宿泊施設に補助をするのも良いが，公共施設への補助を検討していただけると，街歩きの効果，地域の経済効果が生まれるのでないか。
・来年は東北デスティネーションキャンペーンなので，プレＤＣ企画をぶつけながら，日本中から注目を浴び，マスコミに取り上げてもらえるような情報発信ができればと考えている。

太見委員

・５Ｇの環境整備に対する支援や補助に集中すべき。中長期の視点で，Ｗｉ－Ｆｉ，ＳＮＳ，５Ｇの環境整備に当たることが大事だと考える。
・今回，ストレス発散も兼ねて社員は会社に出社せず，地域の宿に泊まってＺｏｏｍ会議を行った

が, 社員が宿泊施設を選定する理由は, Ｚｏｏｍ会議の電波が途切れない, これがマストだった。
・県の資料に, 緊急事態宣言が解除されても宿泊客の動きがないとあるが, これは当たり前。家族, 子供連れのお客様はまだ不安がある。宿泊客はどの層に集中するかというと, やはりビジネス客。
・ビジネス客が求めるのは，ネット環境，Ｗｉ－Ｆｉ，５Ｇであり，これからは必須になってくると思う。
・宿がデスティネーション，目的地になればレンタカーも２次交通も使う。途中で飲食店も利用する。
・宿が目的地になるための環境整備ということで５Ｇ, Ｗｉ－Ｆｉの環境整備への集中を提案する。

村上委員

・富谷市は急成長のベッドタウンでもあり，また古い町並みが奥州街道として残っている街。
・イベントや大きなお祭りで注目を浴びていて魅力ある富谷市だが, イベントもすべて中止になり, 自然体験活動を通じて街づくりを行っている。
・ガイドラインがはっきりしない部分があり，どこでどう決めていいのかと迷う部分があるが，誰かが先に明るいこともやっていかないといけない。
・県の方にも，恐怖とか不安の方ではなく，人が人を呼ぶような，宮城が一体となって，このコロナに打ち勝っていくような，そういう明るい話題に持っていってほしいと思う。